

1 対象年次、単位数、使用教科書

2年次以上、3単位  
経済活動と法 森 篤 昭夫 著 (実教出版)

2 科目の目標

ビジネスに必要な法規に関する基礎的・基本的な知識を習得させ、経済社会における法の意義や役割について理解させるとともに、経済事象を法的に考え、判断する能力と態度を育てる。

3 評価規準 (何を評価するか)

レポート (提出時期)  
スクーリング出席時間数  
試験

4 評価基準 (どんな方法で評価するか)

レポート	・上記レポート目標の基本的な部分のみ理解している場合は、理解度に応じて評価2～3、発展的部分まで理解できていると判断する場合は評価4～5とする。基本的な部分が理解できていない場合は再提出とする。
------	---

5 試験範囲と試験による評価基準

①R 1～3の範囲で7月試験を、R 4～6の範囲で10月試験を、R 7～9の範囲で1月試験を実施。試験内容は基本的な部分から約50%、発展的な部分から約50%を出題し、**評価は30～40点を2、41～70点を3、71～80点を4、81点以上を5とする。なお、29点以下については再試験とする。**

②再試験を繰り返してもなお基準点 (30点) に達しない場合は1とし、単位認定はしない。

6 スクーリングの目標・内容・計画

スクーリングに取り組む姿勢を考慮し、学年末評価の参考資料とする。  
0～5時間は単位認定はしない。

R回数	項目	内容	教科書	標準提出時期
1	第1章 経済社会と法 1 変化発展する経済社会と法 第2章 権利・義務と財産権 1 権利・義務とその主体	経済活動の円滑な流れは法によって行われていることを理解する。	p 5～25	4月下
2	第2章 権利・義務と財産権 2 物と財産権 3 知的財産権	権利・義務の意義、関係そして主体について学習し理解する。	p 26～50	5月下
3	第3章 財産権と契約そしてその保護 1 財産権と契約	財産権の変動、権利の発生・変更・消滅はほとんど契約によることを理解する。	p 51～67	6月下
4	第3章 財産権と契約そしてその保護 2 物の売買 3 物の貸借 4 契約によらない財産権の変動	売買契約の法的性質、意味について理解する。	p 68～95	7月下
5	第3章 財産権と契約そしてその保護 5 財産権の保護	物権的請求権を具体例を通じて理解する。	p 96～117	8月下
6	第3章 財産権と契約そしてその保護 5 財産権の保護 第4章 企業活動に関する法 1 企業活動の主体 2 営業活動の自由と制限 3 株式会社と法	商人概念を規定する商行為についてその種類を明確に理解する。	p 118～168	9月下
7	第5章 取引に関する法 1 手形・小切手と法 2 金融取引	手形・小切手について法律上の要件と制度について理解する。	p 169～200	10月下
8	第6章 企業の責任と法 1 法令遵守 2 消費者と法 3 労働と法	企業も社会の一員として法令に従う必要があり、また企業に対して社会的責任を負わせるなど新しい法令遵守 (コンプライアンス) の考え方について理解する。	p 201～228	11月下
9	第6章 企業の責任と法 4 紛争の予防と解決 発展学習 家族と法	民法の特別法としての労働三法について理解する。	p 229～251	12月中

